

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

596-469

事務事業名	堀端地区優良建築物整備支援事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	産業経済部	課等名	商業・市街地活性化課			1	7	1	6	12	1	30,600
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心して快適なまちづくり				包含する細々目	1	7	1	6	12	2	900
施策	46 活気ある街づくりの推進											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	済み	中心市街地活性化計画 市街地再開発事業等補助金交付要綱						
		事業期間	14	年度～	19	年度	関連計画 条例等					

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値				
	堀端地区優良建築物等整備事業区域	対象区域の面積(m ²)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了は終了年度とする		
			2583		2583		
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度			
目的の記述	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
	防災に強く暮らしやすい住環境が整う サービス・商業施設が造られ、活性化される	街区の住宅戸数(戸)	18目標	0	最終目標	31	19
			18実績	0	19目標	31	↑
			23目標		23実績		最終目標達成年度
	来街者数(人) (交通量調査による歩行者数【銀座3】)	18目標	1000	最終目標	2000	19	
18実績		1946	19目標			↑	
23目標			23実績			最終目標達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	老朽化した店舗・住宅家屋の民間共同 建替え事業に対して助成を行なう。 (計画概要) 施行地区及び面積 飯田市銀座3丁目、追手町1丁目 地内 敷地面積:約1,500m ² 延床面積:約5,600m ² 主要用途:商業施設、業務施設、住宅、 駐車場 規模構造:鉄筋コンクリート造 地上5階、地下1階 事業費のうち、飯田市市街地再開発事業等補助金交付要綱に定めのある経費の3分の2を補助するものである。	埋蔵文化財発掘調査業務委託費、本体工事費のうち共同施設整備費(空地、通路等共用の用途に関するもののみ)、工事監理費、付帯事務費に対する補助を行う	補助事業全体の進捗率(%)	94
		本体工事費のうち共同施設整備費(空地、通路等共用の用途に関するもののみ)、工事監理費、付帯事務費に対する補助を行う	補助事業全体の進捗率(%)	100

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金	139,400	15,600
	県支出金	39,000	4,590
	起債		
	その他		
一般財源	100,400	11,310	
事業費計(A)	278,800	31,500	
人件費	正規職員所要時間	18年度 3,000	19年度 1,500
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	10,728	5,364
	トータルコストA+B	289,528	36,864

特定財源内訳や補足事項	都市再開発法に基づく優良建築物等整備事業補助(間接補助 国1/3 県1/10 市7/30 :H18以外)
-------------	------------------------------------------------------

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	中心市街地に人や物が集まり活気がある状態を目指す	中心市街地に住んでいる人数	現状値	4883	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	4900
	中心市街地に住んでいる世帯数	中心市街地に住んでいる世帯数	現状値	2081	19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標	2060	

この事業を開始したきっかけ 市街地の商店街の中心にあって、店舗・住宅家屋の老朽化が進み、買い物客が減る中で、共同建替えにより街並みを一体的に作り活性化させたいという地元居住者の発意。	事業を取り巻く状況の変化 少子高齢化、定住人口の減少により衰退が進む中、橋南第一地区及び第二地区再開発ビルの完成、隣接するTMOによる空き店舗活用テナントビルのオープン等により交通量の増、本町駐車場の利用率増、空き店舗への出店希望の増など前向きな兆しがある。	事業に対する市民や議会の意見 丘の上商業の中心でありながら、空き店舗等空洞化が進んだ街区であるので、早急な再生・活性化を望む声強い。
------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？ (評価) 結びつく (その理由) 店舗・サービス業・住宅の増加により、市街地の活性化と賑わいに繋がる。	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？ (評価) 余地がある (その理由) 来街者数を増加させるという成果に対しては、隣接する再開発事業と歩調を合わせた事業展開ができれば、さらに効果を上げることができる。
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？ (評価) 必要性がない (その理由) 第二地区再開発事業と機能・建物の重複等を調整しており、現時点での見直しの必要はない。		廃止・休止した場合の影響はありますか？ (評価) 影響あり (その理由) 地権者だけでは共同建替え事業の実現は困難であり、市が補助等を中止した場合には、中心市街地の活性化が実現できなくなる。
	意図の見直しの必要性はありますか？ (評価) 必要性がない (その理由) 共同建替えにより都市機能の更新を図ることは中心市街地再生にとって極めて重要であり、意図の見直しの必要はない。		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む) (評価) 統合不可能 (類似事業名、理由) 地区の特性を生かした事業展開となるため、統合は不可能。ただし、互いに連携することで相乗効果が期待できる。
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか) (評価) 必要ある (その理由) 中心市街地は都市機能が集積し、文化・経済・歴史的な賑わいの中心であった。中心市街地が衰退しまちの求心力がなくなることは飯伊地域全体の活力を衰退させることから、市が関与し活性化させる必要がある。		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？ (評価) 不可能 (その理由) 中心市街地での共同建替えによる再開発事業へのノウハウがない中、機能を充たすためのソフト事業等の支援は不可欠。
	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？ (評価) 妥当である (受益者とその理由) 受益者は堀端地区まちなか再生組合 優良建築物等整備事業整備事業制度に基づく、共用部分に対する負担額であり、その水準は妥当	公平性 評価	

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持 実施年度 19 具体化	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案 ・民間主導の共同建替事業が計画通り完了できるように関係機関との調整等に対して、引き続き助言や支援を適宜行なう。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	